

第23回定時理事会、第9回定時評議員会を開催しました

6月7日(木)帝国ホテルにおいて当財団の第23回定時理事会を、また、6月22日(金)に、同じく帝国ホテルにおいて第9回定時評議員会を開催しました。

第23回定時理事会、第9回定時評議員会それぞれにおいて「2017年度事業報告および決算報告」について審議が行われ、いずれにおいても原案どおり承認されました。

その他、第23回定時理事会では「出版助成採択の件」「評議員会に推薦する理事候補選任の件」「資産運用委

員任期満了に伴う選任の件」が審議され、すべて原案どおり承認されました。

また、第9回定時評議員会においては「理事選任の件」が審議され、いずれも原案どおり承認されました。



第9回定時評議員会の様子

貸借対照表

2018年3月31日現在

(単位：千円)

科目	金額
I 資産の部	
1.流動資産	275,656
2.固定資産	
(1)基本財産	25,937,372
(2)特定資産	10,123,977
(3)その他固定資産	418,466
資産合計	36,755,473
II 負債の部	
1.流動負債	61,678
2.固定負債	48,404
負債合計	110,082
III 正味財産の部	
1.指定正味財産	34,355,618
2.一般正味財産	2,289,772
正味財産合計	36,645,390
負債及び正味財産合計	36,755,473

正味財産増減計算書

2017年4月1日から2018年3月31日まで

(単位：千円)

科目	金額
I 一般正味財産増減の部	
1.経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	488,552
特定資産運用益	82,197
受取寄付金	68,391
雑収益	2,825
経常収益計	641,965
(2) 経常費用	
事業費	529,001
管理費	93,216
経常費用計	622,217
評価損益等調整前当期経常増減額	19,748
評価損益等計	△ 19,748
当期経常増減額	-
2.経常外増減の部	
(1) 経常外収益	55,308
(2) 経常外費用	178,502
当期経常外増減額	△ 123,193
当期一般正味財産増減額	△ 123,193
一般正味財産期首残高	2,412,966
一般正味財産期末残高	2,289,772
II 指定正味財産増減の部	
基本財産運用益	462,894
特定資産運用益	152,077
特定資産売却償還損	36,087
一般正味財産への振替額	668,791
基本財産評価益	42,013
特定資産評価益	96,607
基本財産評価損	6,829,186
特定資産評価損	93,499
当期指定正味財産増減額	△ 6,873,972
指定正味財産期首残高	41,229,590
指定正味財産期末残高	34,355,618
III 正味財産期末残高	36,645,390

2017年度助成研究集の刊行



当財団は、2017年度（第51次）の助成研究成果の要旨をまとめた『助成研究集（要旨）』を刊行しました。掲載されている研究テーマ等は以下のとおりです。

助成研究成果の全文は当財団のアドミュージアム東京ライブラリー内で、また概要は同ライブラリーホームページから検索・閲覧いただくことができます。なお、本誌のPDF版は、当財団のホームページ上でご覧いただけます。

【常勤研究者の部】(50音順)

研究テーマ	氏名	所属
店舗内における今日の購買意思決定プロセス ～モバイルの利用に着目して～	赤松 直樹 他1名	千葉商科大学 政策情報学部助教
ソーシャルマーケティングによる移植医療の課題解決 ～臓器提供意思表示率の向上～ 【継続研究】	瓜生原 葉子 他1名	同志社大学 商学部准教授
時間軸と Third Party を組み込んだ ブランド・インキュベーター・コミュニケーション・モデルの構築と分析 【継続研究】	鈴木 和宏 他4名	小樽商科大学 商学部准教授
マーケティング・コミュニケーションのビッグデータ分析による新市場創造戦略 【継続研究】	西本章宏 他1名	関西学院大学 商学部准教授
集計マクロレベル情報とマイクロレベルデータを融合した広告効果推定法の開発と応用	星野 崇宏 他5名	慶應義塾大学 経済学部経済学教授

計5件

【大学院生の部】(50音順)

研究テーマ	氏名	所属
エコプロダクト広告の受容に対する新聞記事の効果	奥村 孝	筑波大学大学院 ビジネス科学研究科博士後期課程
倍音の力に着目した広告音楽のクロスモーダル効果に関する研究	西井 真祐子	早稲田大学大学院 商学研究科博士後期課程
食品スーパーにおけるチラシ広告がストア・ロイヤルティに及ぼす影響	山中 寛子	学習院大学大学院 経営学研究科博士後期課程

計3件

※継続研究は2年間の研究です
※研究者の肩書は報告書提出時のものであり、現在とは異なることがあります

デジハブの教育利活用のモデルケース 「広告の学校」を開催いたします

「広告は社会共通の文化資源である」
—そのような観点から、吉田秀雄記念
事業財団では、広告アーカイブシステム
「デジハブ(*)」を開発・運用し、さまざま
な分野の研究者および一般の方々に
公開しています。

このたび、3分野の先生方による特別
講義&トークセッション「広告の学校」を、
アドミュージアム東京で開催いたします。
「研究者・教育者がデジハブを活用して、
どのような講義・教育プログラムを実現
することが可能か」その具体例として、
学外で初めて講義を実施いたします。

詳細は当財団ウェブサイトでご覧
いただけます。▶ <http://www.yhmf.jp/>

(*)デジハブとは、「アドミュージアム東京」が収蔵
する広告作品約30万点のデジタルアーカイブシ
ステムです。

1 2018年10月15日(月)16時～17時40分 文化史的視点

「パロディ広告と桃太郎の文化史」

早稲田大学演劇博物館館長 /
同大学文学学術院教授 岡室美奈子先生
キーワード：桃太郎とは何か？
パロディCMから日本文化の深層へ

2 2018年10月15日(月)18時～19時40分 都市・メディア論的視点

「東京タワーとモンスター」

東京大学大学院情報学環・
学際情報学府教授 吉見俊哉先生
キーワード：広告に見る戦後 東京の光と闇

3 2018年10月19日(金)18時～19時40分 クリエイティブ・マーケティング的視点

「広告のクリエイティビティには、理由がある。～アサヒスーパードライの奇跡～」

多摩美術大学美術学部教授 佐藤達郎先生
キーワード：BTA分析 Behind The Advertising

